

入院医療等の調査・評価分科会 今後の検討事項とスケジュール（案）

1. 背景

- 入院医療等の調査・評価分科会（以下、「分科会」という。）においては、答申書附帯意見に関する事項等について、技術的な課題に関して専門的な調査及び検討を行うこととされている。

- また、分科会における技術的な検討課題の議論を、より効率的に進められるよう、分科会の下に専門的な視点からの調査・分析を行う作業グループを設置し、主な課題の作業を行っている。
 - ① 診療情報・指標等作業グループ
 - ② DPC/PDPS 等作業グループ

2. 令和4年度診療報酬改定に向けた対応（案）

- 今後、以下のようなスケジュールで進めることとしてはどうか。

4月28日	○令和3年度調査項目（案）
5月～	○各作業グループにおける検討を開始
	○令和2年度調査結果（速報 その2） <ul style="list-style-type: none">◆令和2年度調査結果（速報 その2）を診療報酬基本問題小委員会に報告
	○個別事項に関する議論（主なテーマ） <ul style="list-style-type: none">・ 一般病棟入院基本料・ 特定入院料（地域包括ケア病棟入院料、回復期リハビリテーション病棟入院料等）・ 療養病棟入院基本料・ 有床診療所入院基本料 等
	◆診療報酬基本問題小委員会に報告
	○令和3年度調査結果（速報）
	○個別事項に関する議論をさらに継続
	◆診療報酬基本問題小委員会に報告

- なお、DPC/PDPS については、令和2年度診療報酬改定に向けた分科会の報告書を踏まえ、DPC/PDPS 等作業グループにおいては、特別調査（※）を行うこととしてはどうか。

※ 中医協等の要請に基づき、退院患者調査を補完することを目的として随時実施される調査。

【入院医療等の調査・評価分科会における検討結果 報告】(令和元年11月6日中医協承認)-抄-(今後のDPC/PDPS等作業グループにおける作業の方向性について)

- ・ 次に該当する病院について、書面調査や個別のヒアリングなどを通じて、それらの病院で提供されている診療の状況等について、引き続き評価分析を行うこととなった。
 - ア) 医療資源投入量の少ない病院であって、急性心筋梗塞、脳梗塞、狭心症、心不全症例のうち、「手術なし」かつ「手術・処置等1なし」の症例が占める割合が高い病院
 - イ) 在院日数の短い病院であって、自院他病棟への転棟割合が高い病院
- ・ 医療資源投入量の多い病院や在院日数が長い病院についても、制度の趣旨に鑑み、提供されている医療の実態の把握を行い、評価分析を行うことが必要である。